



### 3. 土木工学科設立50周年記念公演

現代版組踊絵巻 琉球ルネッサンス

琉球大学工学部 教授（第22期） 仲 座 栄 三

#### 1. 土木工学ルネッサンスへの道のり

うだるような夏日、日々ふさいでいるとき、「50周年記念事業の準備を進めなければならないので相談したい」旨、金城英男土木同窓会会長がわざわざ研究室を訪ねてこられた。私としては、特段の準備もなく、「そうですね、それでは従来のように、どなたか有名な先生を招待して記念講演をしていただけますでしょうか？」と返した。「それではぜんぜん だめだ！ いま建設業界はそんな話を聞くゆとりもない 希望の見えない日々が続いている」ためいきまじりに話す金城会長はいくぶん疲れた様子である。当然ながら、私も知っていた。今、建設業界がいかような状態にあるかを。

いまでも忘れない。金城会長と話しながら、私の頭の中に次から次とある場面がよぎっていた。「もう死ぬしかない！ そう思って無意識に死に場所を見つけに高速道路を走っているとき、オートバイで必死に追いかける者がいる。止めてみると、息子が叫んでいる。お父さん、帰ろう！ 帰ろう！！ 必至にすぎる息子に、お父さんは答えた。だが、周りからは容赦なく罵声が浴びせられた。人間の顔を持つ鬼だ……」「……しかし助けるものもいて、死ぬ気でやりぬいた。気づいてみると借金も返せていた……」<sup>注1)</sup>

2006年、第4回大ウチナンチュ大会、閉会式、沖縄コンベンションセンター展示場は世界から集まった約4000人のウチナンチュで満ちに満ちていた。その最後のアトラクションの舞台が幕を開けた。神に祈るミルクユガフから始まり、肝高のアマワリ、二ライへの風、大綱引き、レキオの夢、舞台は最高潮を迎える。4000人ものウチナンチュが総立ちで、会場は怒涛と化した。歌のきれめ切れ目に「チバリヨー ウチナンチュ」なんども何度も叫ぶ者がいる。その感動は幾日も幾日も色あせるものでなかった。だが、残念なことにその時の写真が一枚もない。<sup>注1)</sup>

注1)：前半の話は、株式会社中善社長・琉球新報掲載記事の一部である。私の記憶している場面のみ。後半の話は、大会に参加した私の回想。

「金城会長、やりましょう！」「皆がもう一回人生をやり直してみよう！ 私は生きたい！ と叫ぶようなすごいことをやってみよう！」金城会長は、「やりましょう」「お願いします」と言いながらも納得したような納得しないような状態で帰られた。その後、なか



沖縄県知事の表敬訪問  
50周年記念祝賀会および公演への招待

なか動き始めない私に、金城会長は足しげく研究室まで通われ、「どうにか進めよう」と進言する。

それからしばらくして、私のところに、数枚の写真がとどく。なんと、あの4000人が総立ちし、怒涛と化した場を捉えた写真がそこにある。「どうしたんだ、この写真」、「あんな暗いところで、よくこんなきれいな写真がとれたな」私が持ち合せのカメラで写した写真は一枚もまともでなかった。身を乗り出すように、そして得意げに彼は「実は、なかなかうまくとれないので、前のイスにこうやって、カメラを固定して、こうやって撮ったんだ！」いつも不器用であった彼のこんなに得意そうなのを私は見たことがない。

「そうか、そうか、そうなんだ！ えらい、えらい！」と叫び、「ところで、この写真のファイルは？」と聞くと、「あ、それ、写真にしたし、もういらなくなるから消した」な、なんとパソコンから消したと答える。「なんたることだ、バカだろう」「なんとかならないか？」「どこかにあるだろう、必ずあるはずだ、帰れ、帰れ、まずそれから探して来い！」彼はいそいそと出ていった。

数日後「あった！」「あった！」「どこにあったんだ？」「パソコンのゴミ箱にあった」本当に奇跡であった。よかった。よかったと2人で語り合った。

「今度、土木の創立50周年記念式典があって、そこで、平田大にその舞台を託してみようと考えている」と相談してみた。彼は、「それがいい、それがいい」、平田さんなら必ず大成功となるはずだと同調してくれた。

その頃、同窓会では、講演者リストとして国仲涼子、ボクシングチャンピオンの具志堅用高や平仲信明、八重山商工野球部の伊志嶺監督……多くの候補者が挙げられていた。だが、私の頭の中は、その候補としてただ1人しか浮かんでいなかった。

その候補は、先の第4回世界ウチナーンチュ大会フィナーレスペシャルアトラクションを成功させ、肝高の阿麻和利の演出などで名を馳せる南島詩人「平田大」である。彼なら、この閉塞感漂う今日に、土木の復興、すなわち「土木ルネッサンス」を成し得るはずだと確信していた。

その後の経緯等は同窓会事務局の働きも含め、金城会長の記録に詳しいので、同窓会による経緯の詳しい説明はそれに譲るとして、平田氏と私の打ち合わせの経緯について、いくつか述べてみたい。

同窓会事務局より、公演に関する段取りをとりあえずは仲座に任せるとの連絡を受け、早速、平田氏と交渉を始める。平田氏には、あの第4回世界ウチナーンチュ大会の再現をさせて頂きたいというのと、50周年を記念する楽曲を新しく創りたいという願いをした。楽曲を創るという理由はこうである。

私は、第4回世界ウチナーンチュ大会での感動とは別に、実は平田氏の隠れ追っかけ人であった。家族そろっての追っかけを13年ほど続けていた。平田氏との初めての出会いは、確か13年ほ



琉球大学学長表敬訪問

50周年記念祝賀会および公演への招待  
防災・環境シンポジウムへの協力要請